

# ニッペ ケンエース® G-II

やに・しみ止め効果にすぐれた多機能タイプの  
つや消し塗料

| 防火材料認定番号 | 品目名        |
|----------|------------|
| NM-8585  | 塗料塗装/不燃材料  |
| QM-9816  | 塗料塗装/準不燃材料 |
| RM-9364  | 塗料塗装/難燃材料  |

|                  |       |
|------------------|-------|
| ホルムアルデヒド<br>放散等級 | F☆☆☆☆ |
|------------------|-------|

## ■ 特長

### ① 耐久性/付着力/耐水性

カチオン形特殊アクリル樹脂を使用していますので、  
耐久性にすぐれ、付着力や耐水性にもすぐれています。

### ② やに・しみ止め性

やに・しみ止め効果にすぐれ、水性のやに、しみ、あくが止まります。  
※ヤニが著しく付着している場合は、ウエスなどでヤニを洗浄して除去し  
被塗装面を十分に乾燥させてから塗装してください。

### ③ 防カビ性

防カビ効果があり、強力防カビタイプのオプションも選べます。

### ④ すぐれた作業性

シーラー(注1)は不要で、乾燥が早く、1日2回塗りが可能です。  
また、旧塗膜をおかさないのでSOP(注2)やEPなどの上に直  
接塗れます。

注1 新設時および素材の種類や下地によっては、シーラーが必要な場合があります。

注2 SOPは付着が悪い為、目荒らしが必要です。

## ■ 用途

商店、事務所、工場、病院、学校などの内部・準外部。

## ■ 適用下地

モルタル、コンクリート、ブロック、木部、鉄部、硬質塩ビ、かき落としモルタル

③繊維壁、耐火被覆用ケイカル板、ロックウールなどの非常に弱い素材には使用できません

旧塗膜(EP、SOP、AE、EP-G(GP))

## ■ 標準塗装仕様 ※旧塗膜は、健全な状態であることを想定しています。

| 工程   | 塗料名  | 塗り回数 | 使用量(kg/m <sup>2</sup> /回) | 塗り重ね乾燥時間(23℃) | 希釈剤          | 希釈率(%) | 塗装方法       |
|------|--|------|---------------------------|---------------|--------------|--------|------------|
| 素地調整 | 浮き膜を除去し、その周辺もケレンしてください。粉化物、よごれ、ごみ、かびなどを除去し、清掃してください。<br>また旧塗膜の劣化が著しい場合は著しい吸込み面へは、下塗りにファイン浸透シーラーをご使用ください。 |      |                           |               |              |        |            |
| 上塗り  | ケンエースG-II  | 2    | 0.13~0.15 注)              | 2時間以上         | 塗料用<br>シンナーA | 0~7    | はけ・ウールローラー |
|      |  |      | 0.14~0.16 注)              |               |              | 5~10   | エアレスプレー    |

## ● 新設塗装仕様(内・外壁面)

| 工程   | 塗料名  | 塗り回数 | 使用量(kg/m <sup>2</sup> /回) | 塗り重ね乾燥時間(23℃) | 希釈剤          | 希釈率(%) | 塗装方法       |
|------|--|------|---------------------------|---------------|--------------|--------|------------|
| 素地調整 | エフロレッセンス、レイタンスなどの粉化物、よごれ、油分などを除去してください。<br>外部新設仕様および旧塗膜の劣化が著しい場合や著しい吸込み面へは、下塗りにファイン浸透シーラーをご使用ください。 |      |                           |               |              |        |            |
| 上塗り  | ケンエースG-II  | 2    | 0.13~0.15 注)              | 2時間以上         | 塗料用<br>シンナーA | 0~7    | はけ・ウールローラー |
|      |  |      | 0.14~0.16 注)              |               |              | 5~10   | エアレスプレー    |

※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)。

注)「ケンエースG-II」の塗付け量は、0.10kg/m<sup>2</sup>/回です。

●使用量:被塗装面単位面積あたりの塗装材料(希釈する前)の使用質量 ●塗付け量:被塗装面単位面積あたりの塗装材料(希釈する前)の付着質量

※かび発生面に塗装する場合は必ず下記の処理を行って塗装してください。

①1~2%の次亜塩素酸ソーダ水で殺菌処理して付着したかびを除去してください。

②塗り付け後は必ず水洗いをし、十分に乾燥させてください。

※鉄部などの金属面には、下塗りとして、さび止め塗料をご使用ください。

※内部塗り替えにおいて、旧塗膜がSOP、FEなどの油性系の場合、目粗しを行ってください。

※記載された塗料以外の適用については最寄りの営業所にご相談ください。

## ■他の塗料との比較 ○大変良好 ○良好△やや不良 ×不良

|      |           | ケンエース G-II | 非水 エマルジョン | アクリル エマルジョン |
|------|-----------|------------|-----------|-------------|
| 塗膜性能 | 耐久性       | ○          | ○         | ○           |
|      | 付着力       | ○          | ○~△       | △           |
|      | 防かび性      | ○          | △         | ×           |
|      | やに、しみ止め   | ○          | ○         | ×           |
|      | 耐汚染、汚染除去性 | ○          | △         | ×           |
|      | 耐水、耐温水性   | ○          | △         | △           |
|      | 旧塗膜への適応性  | ○          | ○         | △           |
| 作業性  | ローラーはけサバキ | ○          | ○         | ○           |
|      | 低温造膜性     | ○          | △         | ×           |
|      | 乾燥の速さ     | ○          | ○         | △           |

## ■乾燥時間

|        | 5~10℃ | 23℃   | 30℃   |
|--------|-------|-------|-------|
| 指触乾燥   | 1時間   | 20分   | 10分   |
| 塗り重ね乾燥 | 4時間以上 | 2時間以上 | 1時間以上 |

※乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

## ■施工上の要点と注意事項(詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください)

- 蓄熱しやすい建材(軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なること、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄りの営業所などにご相談ください。
- 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ケンエースGアクトⅢ(ケンエースG-II)の下塗り材として1液ファインシーラーまたは1液ファインパーフェクトシーラーを使用すると、割れが生じるおそれがあるため、使用しないでください。
- ケンエースG-IIグロスの上に直接ケンエースG-II(つや消し)を塗装すると、割れたり、縮んだりすることがありますので避けてください。
- 鉄部の塗装の場合、2液形のさび止め塗料または上塗りと同系色の「ニッペ1液ハイボンドファインデック」を塗って使用してください。
- 鉄部には直接塗装できません。あらかじめ、さび止め塗料を塗っておく必要があります。
- 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理してから塗装してください。
- 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
- 色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
- つや有り仕上げを塗り替える場合、種類によっては適性がない場合がありますので、試し塗りをしてから施工してください。
- 溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
- 所定のシーナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやヤレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシーナーおよび希釈率をまもってください。
- 異なる色相を塗り重ねる場合(例:1回目の上塗りを塗装してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合など)2回目の上塗りが1回目の上塗りを侵してラインや帯などが変色(ブリード)する場合がありますのでご注意ください。
- 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- 内部塗り替えにおいて旧塗膜がSOP、FEなどの油性系の場合、研磨すりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
- 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご確認ください。
- 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地への吸い込み箇所がある場合はその部分を増し塗りしてください。
- やにが著しく付着している場合は、ウエスなどでやにを水拭きして除去し被塗装面を十分に乾燥させてから塗装してください。希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥(目安23℃、6時間)させてから2回目の塗装をすることでやに止め性が向上します。シミ、あく面は止まりにくい場合がありますので、ウエスなどで水拭きを行い、被塗装面を十分乾燥させてから塗装してください。
- 塩化ビニルクロスのはくれ、めくれ、浮きなどは接着剤で貼り付け、ローラーで圧着したり、類似クロスで面合わせをするなどあらかじめ補修してください。またクロスは接着剤が低下している場合、塗装することでクロスが浮き上がってくる場合がありますので、クロスは合わせ部などはあらかじめ接着剤などで押さえおくことが安心です。
- 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケツ科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケツ科学社製Hi500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)の条件下で塗装してください。
- 表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。

## ■性能 白および淡彩

| 試験項目         | 規格   | 試験項目 |
|--------------|--|------|
| 容器の中での状態     | かき混ぜたとき、堅いかたまりがなく一様になるものとする。                         | 合格   |
| 塗装作業性        | はけ塗りおよびローラーブラシ塗りに支障があってはならない                         | 合格   |
| 塗膜の外観        | 塗膜の外観が正常であるものとする。                                    | 合格   |
| 乾燥時間h(半硬化乾燥) | 5時間以内とする。  | 1時間  |
| 隠ぺい率%        | 90以上   | 95   |
| 耐水性          | 水に浸したとき異常がないものとする。                                   | 合格   |
| 耐アルカリ性       | アルカリに浸したとき異常がないものとする。                                | 合格   |
| 促進耐候性        | 白亜化の等級は1以下で、膨れ、はがれ及び割れがなく、色の変化の程度が見本品に比べて大きくないものとする。 | 合格   |
| 防かび性         | 飼料又は、試験片の接種した部分に菌糸の発育が認められない(JIS Z 2911)             | 合格   |

## ■商品体系

| 工程  | 商品名       | 系統                     | 容量          | 色相 | つや   | 塗り面積/缶当たり/1工程      | 希釈剤          |
|-----|-----------|------------------------|-------------|----|------|--------------------|--------------|
| 上塗り | ケンエースG-II | カチオン系弱溶剤アクリル樹脂系非水分散性塗料 | 16kg<br>4kg | 各色 | つや消し | 106~123㎡<br>25~30㎡ | 塗料用<br>シンナーA |

※上記に記載されている1缶当たりの塗り面積は、1工程当たりの塗り面積です。また、あくまでも目安であり、素地の形状により増減しますので、あらかじめご了承ください。

- ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材(ニッペ1材カチオンファイナ、ニッペ1材ファイナ#200)などで処理してください(合成樹脂エマルジョンパテの使用は避けてください)。
- 新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
- 塗装直後から頻りに人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
- カウンター、陳列棚、ベンチ、床面などが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
- 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分にしてください。
- 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ねる適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペプライドオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- 薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がりが不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠ぺい出来ない場合があるため、事前に試験施工塗り板等でご確認ください。
- 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するよう箇所を使用する場合は、弱溶剤タイプのピュアライドUVプロテクトクリヤーシリーズ(MK/DF/SI)を上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解やシミが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
- 濃彩色を塗装する際には、つやむらが目立ちやすくなるおそれがありますので、事前に試し塗りをしてくださいの上、ご使用ください。
- 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見える場合があります。
- 塗装方法により色相が多少変化するため、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- 汚れ、さびなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- 可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビ/鋼板、塩ビミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
- 塗料は内容物が均一になるようによくかき混ぜてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かきはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかき混ぜてご使用ください。
- 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- 内容物/容器を国際、国、都道府県または市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
- 塗料、塗料容器、塗料具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗料具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すこと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

- 本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート(SDS)をご参照ください。
- 本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

## 日本ペイント株式会社

北海道支店 ☎011-370-3101 近畿支店 ☎06-6455-9608  
 東北支店 ☎022-232-6711 中国支店 ☎082-281-2180  
 関東支店 ☎03-5479-3614 四国支店 ☎0877-56-2346  
 北関東信越支店 ☎03-5479-3614 九州支店 ☎092-751-9861  
 中部支店 ☎052-461-1960

- 本カタログの内容については予告なしに変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社-その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- ©Copyright 2025 NIPPON PAINT Co.,LTD. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

カタログNo.  
 NP-D096  
 TY250608T  
 2025年6月現在